

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



学校法人近畿大学 環境報告書 2022



KINDAI
UNIVERSITY

SDGs達成にむけた本学の取り組みについて

『持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）』とは、国連により2001年に策定された『ミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）』の後継として、2015年の国連サミットで採択された「2030年までに持続可能でよりよい正解を目指す国際目標」です。貧困、教育、エネルギー、経済成長、気候変動など17分野のゴールと、169の具体的なターゲットで構成されているこの目標は、地球上の「誰一人取り残さない社会（Leave No One Behind）」ことを誓っています。既に周知のようにわが国でも産・官・学、あらゆる組織において、関連した様々な取り組みが行われており、2025年に開催される大阪・関西万博でもSDGs達成への貢献が目標の1つに掲げられています。



近畿大学 学長 細井美彦

現在、世界は、気候変動による異常気象や新型コロナウイルス感染症拡大、また各国におけるエネルギーや食糧の安定確保に関する不安など、多くの困難に向き合っています。人類がこの困難に打ち克ち、今後も存続し続けるためにも、私たちひとりひとりがSDGsの17のゴールを身近に感じ、自分なりに可能な取り組みを行うことが不可欠です。

近畿大学は、医学部を含む15学部49学科を擁する総合大学であり、養殖漁業、バイオコークス、環境・まちづくり、クリーンエネルギー、次世代農業など数多くの研究や社会貢献を行ってきました。また、国際社会に対応できるグローバル人材や、Society5.0の実現に向けた先端IT人材の育成も目指しております。

これより、さらなる次世代の教育・研究機関を目指す近畿大学は、学内外の組織、あるいは学生も含めた個人のSDGsの目標達成に関連する取り組みを積極的に支援することを宣言します。具体的には、学内におけるSDGsのシーズを整理し、ゴール達成に利する研究開発を支援し、これらから生まれる活動成果を社会に向けて積極的に発信・展開していく所存です。皆さまの温かいご理解とご支援お願い申し上げます。

SDGsをテーマにした遊んで学べる社会課題解決ゲームを考案 ダウンロードして誰でも遊べるように一般公開



近畿大学文芸学部の講義「プロデュース学特論Ⅲ」では、学生がSDGsをテーマにした遊びを企画しています。2023年1月には貧困をテーマに、解決策や世界の現状を盛り込んだ文字札とユニークな絵札の「かるた」を作成するなど、社会課題解決に役立つ遊びを考案。授業後には、学生が考案したゲームを体験し改善点を検証。その後、一般公開もされました。



「食」を通じてヒト・モノを繋ぐ、学生のSDGsプロジェクト 本泉寺子ども食堂で、学生が食品ロス削減を兼ねたイベントを実施



近畿大学アカデミックシアターの学生団体「食品ロス削減推進プロジェクトC.S.S」は、2022年12月、東大阪市の本泉寺で子ども食堂の活動を行うカンボジア祭りを開催しました。食品ロスにつながる食材を活用したカンボジア料理をふるまい、子どもたちにカンボジアへの理解を深める機会を提供するとともに、食に困っている子どもたちに寄り添い、少しでも心温かい時間、楽しい時間を過ごしてもらうことを目的としました。



ヘルスケア分野等に関する新事業ビジネスプランを 創出する「カレッジラボ」を開催



堺市、SCBH※、近畿大学医学部、泉北高速鉄道が連携し、学生によるアイデアとディスカッションから新しいヘルスケアサービスのプランを作成する「カレッジラボ」を2022年6月・7月に開催しました。SCBHと泉北高速鉄道の支援を得て、近畿大学医学部生が健康寿命延伸に関するサービスを提案し、地域の活性化に貢献しています。

※SCBH…堺市健康寿命延伸産業創出コンソーシアム



近畿大学と第一生命保険株式会社が包括連携協定を締結



2022年10月、近畿大学と第一生命保険は包括連携協定を締結し、地域社会の発展と教育・研究の促進を目指しています。健康増進やライフプランサポート、SDGs推進などで地域社会を活性化する取り組みを計画し、マネー・ヘルス・ライフサイクルをテーマにしたオープンセミナーや交流会も共催します。協定では健康増進や地域社会の活性化、SDGs活動、ワーク・ライフ・バランスの推進など、様々な分野での連携が盛り込まれています。



「SDGs WEEK in KINDAI 2022 —みんなのSDGs 近大のこれまでとこれから—」



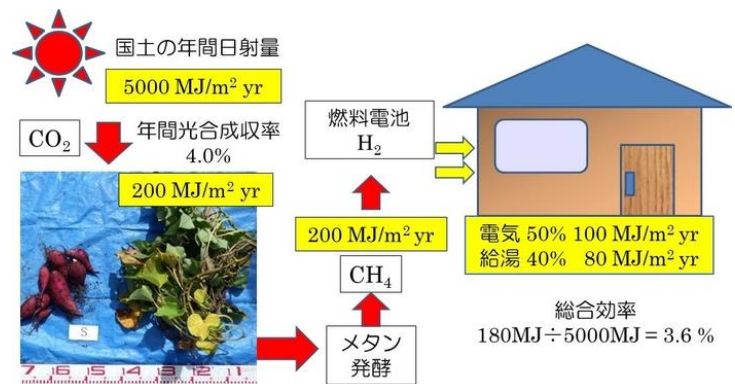
近畿大学は「第5回 SDGs WEEK in KINDAI 2022」を2022年11月・12月に開催しました。学生や教職員が総合大学の強みを活かし、SDGsへの貢献を学び考える機会として、様々なイベントを実施。ケニアで難民支援活動をした学生の留学体験記の発表、ジェンダー平等実現に向けた講演会、海洋プラスチックアクセサリやレジンアクセサリーの作成ワークショップ、食品ロスのパネル展や、古着ファッションショーなどのイベントを実施。また、プレイベントとして仙台高等学校の生徒とのSDGsワークショップも行われました。



下水処理水を液体肥料としてサツマイモの大量生産に成功 サツマイモによるバイオ燃料で化石燃料の代替を目指す



生物理工学の鈴木高広教授らの研究グループは、下水処理水を液体肥料として利用し、サツマイモの大量生産方法を開発しました。これにより、バイオマス資源における世界最高の3.6%の日射エネルギー活用効率を達成し、化石燃料を代替することで温室効果ガスの削減に寄与できると期待されています。この成果は2023年2月、国際誌 "Horticulturae" に掲載され、サツマイモを栽培し燃料電池で発電することでCO₂の吸収量が大幅に増えることを示唆しています。



カーボンニュートラルの実現に向けて大学と商社が連携 バイオコークスを社会実装し、鉄鋼業界のCO₂排出量削減を目指す



近畿大学と住友商事マシネックス株式会社は、バイオリサイクル燃料である「バイオコークス」の普及を図り、特に鉄鋼業界でのCO₂排出削減に取り組んでいます。産学連携のコンソーシアムを立ち上げ、バイオコークスの利用により循環型社会の確立を目指しています。

本取り組みについて、2022年12月、「エコプロ2022」にて共同出展しました。



社会にやさしい理容室を「SDGs Barbers」として認定 小規模経営の理容室でも積極的にSDGsに取り組むきっかけに



経営学部の中谷常二教授ゼミが、全国の理容室有志と協力して「SDGs Barbers」の仕組みを構築し、SDGsに配慮した頭皮・頭髮向け化粧水「CareL-ケアル-」を開発しました。2022年10月には、この取り組みを報道関係者に紹介する発表会が開催され、学生が開発の経緯を説明しました。SDGsに賛同した理容室は、「SDGs Barbers」と認定され、認定店限定で新商品の販売や共通キャンペーンを展開しました。これにより、理容業界のSDGs推進と新たな客層の呼び込みが可能となります。



「第10回院生サミット」を3年ぶりに対面で開催 大学院の全研究科が相互交流し、新たなイノベーション創出を目指す



2022年10月、「KINDAIが挑戦する未来 ー多様性が生み出す真の総合力ー」をテーマに、6キャンパスの院生が一堂に会し研究成果を発表する「第10回院生サミット」を開催しました。異なる研究分野の交流を促進し、新たなイノベーションを生み出すことを目指します。プログラムには特別講演や口頭・ポスター発表、各テーマのシンポジウムが含まれ、500人以上が参加しました。



近畿大学が栽培・研究するフルーツを用いたコラボ商品を開発！



アドベンチャーワールドとの産学連携で、近畿大学附属湯浅農場が育てる「近大柑橘」と「近大マンゴー」を使用した新商品を開発しました。2022年8月、ブラッドオレンジを使用したポップコーンと、近大マンゴーを使ったオリジナル期間限定メニューを販売開始しました。これらの果物は、和歌山の自然と長年の研究から生まれた美味しい果実で、地元の魅力を堪能できます。



商品の製造にあたり、ブラッドオレンジの加工とポップコーンの製作は地元の就労支援事業所「おかし工房 SAWA」と「あすの実」で行われ、果実を一つずつ丁寧に手剥きしています。

炭焼き職人のSDGs！紀州備長炭の木酢液で弱酸性浴 臭いと色を適度に抑えた精製木酢液「Moder(モダー)」 新発売



薬学部と株式会社KIMは、紀州備長炭の副産物である木酢液を利用した入浴剤「Moder」を共同開発し、2022年4月販売を開始しました。紀州備長炭の炭焼き職人から「紀州備長炭の木酢液をもっと広げたい」と相談を受け、紀州備長炭の製造時に採れる木酢液の臭いと色を、低コストで低減させる方法を開発。副産物として生成する木酢液を有効利用したSDGsの取り組みと言えます。この商品は、入浴時に使うことで弱酸性浴を楽しめ、生活の質を向上させることを目指しています。



持ち帰り寿司店「小僧寿し」が「『近大生まれ本鮪』まぐろの日祭」を開催



近畿大学水産研究所と株式会社小僧寿しはコラボレーション企画として2022年10月、持ち帰り寿司店において期間限定で「近大生まれ本鮪」まぐろの日祭を開催しました。近大水産研究所は、32年の歳月をかけて世界初の本鮪完全養殖に成功し、SDGsの目標に貢献する持続可能な水産産業を確立しました。今回提供される近大生まれの本鮪は、愛媛県宇和島の海で丹精込めて育てられ、色鮮やかで味わい深い身質を持ちます。



科博連サイエンスフェスティバルにイベントブース『そうだ、里山を知ろう。』を出展



総合社会学部の村松秀教授ゼミと総合地球環境学研究所（地球研）は、2023年2月に京都市青少年科学センターで開催された第17回「科博連 サイエンスフェスティバル」に、里山をテーマにしたブースを出展しました。このイベントでは、参加者が里山のジオラマを作るワークショップや、「葉っぱフミ踏み体験」などが行われ、地球研のモットーである「地球環境問題の根源は、人間の文化の問題」に基づき、人々が自然とのつながりを再確認する機会を提供しました。

